



ぬかただより



岡崎市立額田図書館
秋号 No. 64
2022年9月発行

2023年にはNHK大河ドラマ「どうする家康」が始まります。岡崎は徳川家康公ゆかりの地です。今号では家康公と額田地区にどのような関わりがあるのか調べました。

家康公が額田の天恩寺に一泊

天正3年(1575)に武田の軍が長篠城を包囲し、落城目前にして城主奥平信昌は鳥居強右衛門に命じ、岡崎の家康に事の急を報告しました。家康は急ぎ出陣し、天恩寺に一泊しました。翌日、大杉のところで延命地藏に呼び止められ、振り返ると敵の刺客が弓を射る寸前でした。危うく難を逃れた家康は、この大杉を何回も見返りながら長篠に向かったといい、このことから「見返りの大杉」と呼ばれるようになったといわれています。

※岡崎市ホームページ (<https://www.city.okazaki.lg.jp/1550/1575/1662/p022126.html>) より



天恩寺
愛知県岡崎市公式観光サイト 岡崎おでかけナビより



見返りの大杉
愛知県岡崎市公式観光サイト 岡崎おでかけナビより

樹齢は推定千年。高さ約30メートル、幹回り約4.5メートル。家康公が命拾いした時には、既に人が隠れることができる大きさだったようです。

(参考:中日新聞 2021/3/14)

天恩寺は額田地区の片寄町にあり、貞治元年(1362)足利義満によって開かれたと伝えられます。室町時代の建築物である仏殿と山門は、ともに国の重要文化財に指定されています。慶長7年(1602)に出された徳川家康朱印状も現存しています。

※朱印状とは戦国大名や江戸時代の将軍が、花押の代わりに朱印を押して発行した公的文書。(大辞林第4版 2019/9 出版より)



家康公像
愛知県岡崎市公式観光サイト 岡崎公園より

家康公に急を知らせた鳥居強右衛門が走った道筋は？

天正3年(1575)、長篠城の危急を告げに城を脱して岡崎城に走った鳥居強右衛門(行程は片道約50キロ)。帰還後、長篠城内に入る機会をうかがっていたところを武田軍に捕まります。その後、城内に向かって援軍が近く到着することを大声で知らせたため、磔にされました。

長篠城史跡保存館の説明図によると、鳥居強右衛門は額田地区の宮崎から檜山を抜け、大平を経て岡崎城に入り、帰りも同じ道に戻っているということです。

また、別の道筋を通ったという説もあります。こちらの道筋については次号で取り上げます。

●参考資料●「新編岡崎市 額田資料編 I 文化財 考古 中世城館」新編岡崎市史額田資料編編集委員会／編集 岡崎市 AN/233/シ、

「新編岡崎市史 民俗 12」新編岡崎市史編集委員会／編集 新編岡崎市史編さん委員会 A/233/シ/12、「烈士／鳥居強右衛門とその子

孫 丸山彭／編 鳳来町立長篠城跡史跡保存館 A/289/ト、「ぬかた町文化財めぐり」額田郡額田町教育委員会 AN709/又

＊ 図書館からのお知らせ ＊

おはなし会、ブックスタートは
新型コロナウイルス感染拡大防止のため、
中止や変更をしております。

最新情報は、図書館ホームページ、
館内掲示等でご確認ください。



秋号のおすすめ本

ちいさいこむけ

『ハロウィン！ ハロウィン！』

西村敏雄/さく 白泉社 E/ハ



きょうはハロウィン！たろうくんは、ぼうしとマントをつけてドラキュラになったよ。それをみていたどうぶつたち。みんなでこわ～いかっこうにへんしん！おばあちゃんのおうちに、おかしをもらいにいくことにしたよ。

「トリック オア トリート！」

おうちでまっているおばあちゃんのかっこうに、ちゅうもくしてね。おかしはぶじもらえたのかな？

小学生向け

『夕焼け色のわすれもの』

たかのけんいち/作 講談社 913/タ



小6の翔太と純は、団地に住んでいるクラスメイトに忘れ物を届けに行きます。団地に着いた2人は、まるでタイムスリップしたかのような昭和の風景を目にします。広場で見たことのない古い遊びをする子どもたち、むかしの形の郵便ポスト…。なんだか違う世界に迷いこんだ気分です。おまけにクラスメイトの部屋の表札には別の名前が。なにかおかしいことが起きている…？

夕暮れに起こるちょっとふしぎな物語です。

YA向け

『一度読んだら絶対に忘れない』

世界史人物事典』



山崎圭一/著 SBクリエイティブ YA/280.4/イ

ルイ16世は錠前づくりが趣味だった。レオナルド＝ダヴィンチはメモ魔で、そのメモは左右反転させた鏡文字で書かれていた…。ウラ話を交えながら歴史上の人物が紹介されます。興味深いウラ話に、人物や事柄が紐づけされることによって自然に頭の中に入ってきます。

世界史が苦手だった大人のかたにもお薦めです。

大人向け

『泣きかたをわすれていた』

落合恵子/著 河出書房出版社 913.6/オチ



認知症の母親を介護する壮絶な毎日。その母親をあの世へ見送ったあと、自身の老いと病との葛藤が始まる冬子。72歳の冬子から、人生終盤の心の在りかたを教えてください。主人公の年齢や、書店を営んでいる設定なども著者を思わせる自伝的小説。「ひとは1冊の本を残して死んでいく。」というフレーズが深く心に刺さりませう。

老若男女問わずお薦めしたい1冊です。

今号でとりあげた天恩寺の『見返りの大杉』。今では、木に触れると元気になれるパワースポットとして親しまれています。一度訪れてみてはいかがでしょうか。

次号も引き続き、家康公と額田地区のエピソードについてお伝えします。お楽しみに。



岡崎市立額田図書館

榎山町字山ノ神 21 番地 1 TEL82-2953

【開館時間】9:00～19:00 【休館日】月曜日 ※祝日の場合は開館、翌日以降の平日に休館。

車庫券①：250

